

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
中央工学校 O S A K A	昭和61年3月31日	中野 吉晟	〒561-0872 大阪府豊中市寺内一丁目1-43 (電話) 06-6866-0800			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 中央工 学校	昭和39年3月27日	堀口 一秀	〒114-8543 東京都北区王子一丁目26-17 (電話) 03-3906-1211			
目 的	工業分野に従事しようとする者に、企業との連携の上で実務性の高い専門知識及び技術・技能を修得させるとともに志操堅実な技術者を育成する事を目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課 程	建築学科	2年(昼)	2,626単位時間 (又は単位)	平成7年文部科学 省告示第7号	
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,192単位時間 (又は単位)	1,400単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	34単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	58人	4人	29人	33人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有) 無) ■成績評価の基準・方法について 試験、実習、出席学習態度の総合 的評価	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月1日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■春 季：4月1日～4月10日			卒業・進級条件	履修すべき全科目に合格 卒業課題の提出・合格 履修期間の出席率が80%以上 所定の費用を全納している	
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無) ■長期欠席者への指導等の対応 補習授業等			課外活動	■課外活動の種類 なし ■サークル活動 (有) 無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 建設業界 ■就職率 ^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} 25.0% ■その他(任意) (平成28年度卒業者に関する平成29年3月時点の 情報)			主な資格・検定	建築士受験資格、建築施工管理技士受 験資格、CAD利用技術者検定、福祉 住環境コーディネーター、色彩検定 他	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 14名 ■中退率 31.1%</p> <p>平成28年 4月 1日在学者 45名 (平成28年4月入学者を含む) 平成29年 3月31日在学者 30名 (平成29年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、学習意欲低下</p> <p>■中退防止のための取組 担任面談による指導、入学前の進路確認、保護者懇談会</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: URL: http://www.chuoko-osaka.ac.jp/</p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

専門学校の目的は「職業もしくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教育の向上を図る」ことにある。本校は、建築系専門学校として100年余の歴史と伝統のある中央工学校のグループ校で、工業技術教育を行う専門学校として技術者の育成を行っているが、広く社会の要請に応じた組織的な教育を行うためには、企業等との連携は欠かせない。専門課程の教育内容に適した企業との連携により、実践的な職業教育水準の維持向上に努める。特に教科構成や実習・演習の実施、教員研修について、企業等の意見を反映させるように取り組む。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名前	所属
小松原 学	富士教育訓練センター校長
猪木 陽子	一般社団法人関西インテリアプランナー協会副会長
堀越 保幸	日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社 建設事業部技術部建築設計技術グループ長
山田 恭子	パナホーム株式会社営業設計部営業設計企画室リーダー
内田 利恵子	建築設計室Morizo代表
沖 清忠	インカー・ドロ잉株式会社マネージャー
田尻 元子	株式会社ジー・プラン設計室室長

(開催日時)

- 平成27年度 第1回 平成27年 9月30日(水) 18:15~18:50
- 第2回 平成28年 2月12日(金) 14:55~17:30
- 平成28年度 第1回 平成28年 9月30日(金) 18:30~19:10
- 第2回 平成29年 2月10日(金) 15:00~17:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実習・演習等は専門学校教育の根幹をなす重要なものである。よって、常に最新の技術を指導する必要がある。そのために学校と企業等が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育となるように努める。

連携を行う企業とは、雇用契約書を取り交わし、契約の趣旨に則り実践的な職業教育を行うものとする。

科目名	科目概要	連携企業等
建築・インテリアデザイン演習	色彩・レイアウト等グラフィックデザインの基礎を理解させ、建築・インテリアのプレゼンテーションにおける図面・ボード・ドキュメント等のデジタルによる表現方法を習得させる。	コラムデザインセンター ナカヒラアーキテクツ
CAD演習 I	現在の建築技術者にとってITスキルは不可欠であるため、その一つとしてCADによる図面作成技術を業界で最も使用されているソフトを用いて習得させる。	コラムデザインセンター ナカヒラアーキテクツ
ベーシックデザイン演習 I	さまざまな単位空間をコンセプトワークによって創造させることにより、イメージの空間化やプレゼンテーションの能力を養う。	岡建築デザイン事務所 東部淳一建築設計室
レンダリング演習 I	立体・空間の表現技術や図法・絵画技術を習得させる。	岡建築デザイン事務所 Atelier-NAG
デジタルプレゼンテーション演習	デジタルツールを利用した話し方やスライドデザイン等の手法を習得させ、プレゼンテーションのスキルアップを図り、自分の考えを他者に伝える能力を養	ディースタイルカンパニー

	う。		
3. 教員の研修等			
(教員の研修等の基本方針)			
本校の教育職にあるものは、各自が担当する授業の分野に応じ、企業等と連携の上で高度化、多様化する理論及び新技術等について研修に努めなければならない。			
校長に承認を得た者は企業等と連携の上で、校外研修(長期研修・短期研修)及び特別研修を行うことができる。			
4. 学校関係者評価			
(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)			
平成 29 年 4 月 1 日現在			
名 前	所 属		
小松原 学	富士教育訓練センター校長		
猪木 陽子	一般社団法人関西インテリアプランナー協会副会長		
堀越 保幸	日鉄住金テックスエンジニア株式会社 建設事業部技術部建築設計技術グループ長		
山田 恭子	パナホーム株式会社営業設計部営業設計企画室リーダー		
内田 利恵子	建築設計室Morizo代表		
沖 清忠	インカー・ドローイング株式会社マネージャー		
田尻 元子	株式会社ジー・プラン設計室室長		
(学校関係者評価結果の公表方法)			
URL: www.chuoko-osaka.ac.jp			
5. 情報提供			
(情報提供の方法)			
ホームページ・教職員会議にて平成28年度教育基本方針を配布			

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築学科(昼間部)) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次 学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
	○		カラーコーディネート	文部科学省認定のA・F・T色彩検定2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	1 前後	106		○		
	○		カラーコーディネート	文部科学省認定のA・F・T色彩検定2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	2 前後	106		○		
	○		福祉住環境コーディネーター	東京商工会議所認定の福祉住環境コーディネーター2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	1 前後	(106)		○		
	○		福祉住環境コーディネーター	東京商工会議所認定の福祉住環境コーディネーター2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	2 前後	(106)		○		
	○		IT利用技術	社団法人コンピュータソフトウェア協会のCAD利用技術者試験2級に合格できる能力を身に付けさせる。	1 前後	(106)			○	
	○		IT利用技術	社団法人コンピュータソフトウェア協会のCAD利用技術者試験2級に合格できる能力を身に付けさせる。	2 前後	(106)			○	
	○		建築施工管理技術	2級建築施工管理技術検定試験を合格を目標にして、入学してから学習した建築全般(計画・法規・構造・施工)の知識の総復習を行う。	2 前後	(106)		○		
	○		管工事施工管理技術	2級管工事施工管理技術検定試験の合格を目標に管工事に関する基礎知識、専門知識、施工管理、関係法規について修得させる。	2 前後	(106)		○		
○			数学	建築に必要不可欠な数学の基礎を確実なものとし、数学的思考方法を身に付けさせる。	1 前	36		○		

○		建築・インテリア概論	建築・インテリアの各分野に携わる実務者による講義を通して、建築・インテリア業界の概要、現状を理解させる。	1 前	36		○		
○		建築史 I	日本建築及び西洋建築の発展過程を理解させ、建築技術者に必要な建築的知識を身に付けさせる。	1 前	36		○		
○		構造力学 I	建築物の骨組みに作用する反力の働きを理解させるとともに、部材内に流れる力(応力)の求め方を習得させる。	1 前	36		○		
○		建築構造 I	各種構造の概要を理解させ、設計等の実践に対する応用力を養う。	1 前	36		○		
○		建築・インテリア基礎製図演習	木造における一般図や詳細図の基本事項をトレースを通じて習得させ、製図技法や表現能力を身に付けさせる。	1 前	144			○	
○		建築・インテリアデザイン演習	色彩・レイアウト等グラフィックデザインの基礎を理解させ、建築・インテリアのプレゼンテーションにおける図面・ボード・ドキュメント等のデジタルによる表現方法を習得させる。	1 前	72			○	
○		CAD演習 I	現在の建築技術者にとってITスキルは不可欠であるため、その一つとしてCADによる図面作成技術を業界で最も使用されているソフトを用いて習得させる。	1 前	72			○	
○		ベーシックデザイン演習 I	さまざまな単位空間をコンセプトワークによって創造させることにより、イメージの空間化やプレゼンテーションの能力を養う。	1 前	72			○	
○		レンダリング演習 I	立体・空間の表現技術や図法・絵画技術を習得させる。	1 前	72			○	
○		建築計画 I	日常生活と建築との関わりについて考えさせるとともに、建築計画を進めるための基本事項を理解させ、過去の作品例を分析しつつ、未来に対応できる建築家としての能力を養う。	1 後	34		○		
○		建築計画 II	日常生活と建築との関わりについて考えさせるとともに、建築計画を進めるための基本事項を理解させ、過去の作品例を分析しつつ、未来に対応できる建築家としての能力を養う。	2 前	36		○		
○		環境工学	快適な室内環境をつくりだすために必要な空気、熱、光、音等の環境要素について基礎的知識を理解させる。	2 前	36		○		

○		建築設備Ⅰ	建築設備の役割及びその種類・構成を理解させ、地球環境問題・建物の省エネルギーとの関わりについて急速に変化する社会情勢を考慮しながら、それぞれの設備について理解させ、建築計画に応用させる能力を養う。	2 前	36	○			
○		建築設備Ⅱ	建築設備の役割及びその種類・構成のほか、地球環境問題・建物の省エネルギーとの関わりについて急速に変化する社会情勢を考慮しながら、それぞれの設備について理解させ、建築計画に応用させる能力を養う。	2 後	34	○			
○		建築史Ⅱ	日本及び西洋の近代建築史・現代建築史の発展過程と設計理論を学習を通して、建築技術者に必要な建築的知識を身に付けさせる。	1 後	34	○			
○		建築法規Ⅰ	建築基準法及び関係法令を理解させるとともに、演習を通じて運用能力を養う。	2 前	36	○			
○		建築法規Ⅱ	建築基準法及び関係法令を理解させるとともに、演習を通じて運用能力を養う。	2 後	34	○			
○		構造力学Ⅱ	静定構造物の応力算定及び応力図の描き方を理解させる。	1 後	34	○			
○		構造力学Ⅲ	構造力学Ⅰ・Ⅱで学んだ静定構造力学の知識を基本にして、不静定構造物の反力、応力の求め方を理解させる。	2 前	36	○			
○		構造設計	構造力学と構造計画の関連を理解させ、建築計画やデザインにどのように反映されているかを習得させる。	2 後	34	○			
○		建築構造Ⅱ	各種構造の概要を理解させ、設計等の実践に対する応用力を養う。	1 後	34	○			
○		建築材料Ⅰ	建築物の設計、構造計画、施工のために必要な建築材料（主に構造材料）の基本的な性質等について理解させるとともに、設計製図、一般構造等との関連性を重視し、より適正な材料の使用方法を習得させる。	2 前	36	○			
○		建築材料Ⅱ	建築物の設計、構造計画、施工のために必要な建築材料（主に非構造材料）の基本的な性質等について理解させるとともに、設計製図、一般構造等との関連性を重視し、より適正な材料の使用方法を習得させる。	2 後	34	○			
○		建築施工Ⅰ	建築の基礎的な施工方法、及び工事現場の業務・態度・習慣を習得させるとともに、施工の重要性について認識させる。	1 後	34	○			

○			建築施工Ⅱ	建築の基礎的な施工方法、及び工事現場の業務・態度・習慣を習得させるとともに、施工の重要性について認識させる。	2 前	36		○		
○			建築積算	建築における建築積算の重要性を認識させるとともに、実務に即応できる積算技術と積算価格の構成技術を習得させる。	2 後	34		○		
○			都市デザイン	都市計画に関する広範な分野の基礎を修得し、建築と都市の関わりについて考える力を養う。	2 後	34		○		
○			防災計画	建築の安全管理を設計計画との関わりで理解させる。	2 後	34		○		
○			建築製図演習	R C造・S造における一般図や詳細図の基本事項をトレースを通じて習得させ、製図技法や表現能力を身に付けさせる。	1 後	136			○	
○			建築設計演習Ⅰ	単位空間を基本とした設計技術の総合性に立脚した計画方法・表現を身に付けさせる。	1 後	136			○	
○			測量実習	建築測量の目的・意義・方法を理解させるとともに、器具の取り扱い方、測量方法、データの整理方法等について習得させる。	2 後	34				○
○			C A D 演習Ⅱ	現在の建築技術者にとってITスキルは不可欠であるため、その一つとしてCADによる図面作成技術を業界で最も使用されているソフトを用いて習得させる。	1 後	34			○	
○			3次元C A D演習	企画、プレゼン、設計、図面作成という建築のプロセスを、Archicadの習得を通して体得させ、3次元設計・BIMの基礎技術を習得させるとともに、CGを使ったプレゼンテーション技法について理解させる。	2 前	36			○	
○			テクニカル製図演習(施工図・設備図)	施工図の写図を通して、施工図を描く必要性について、また、設備図の写図を通して、建築設備の重要性について理解させる。	1 後	68			○	
	○		卒業制作(建築設計コース)	履修した各科目の関連に留意し、これらを総合して一つの作品制作を通じて体系的にまとめる能力を養う。	2 後	204			○	
	○		建築設計演習Ⅱ(建築設計コース)	作品制作を通して、建築設計の基本的な技術と作業態度を体得させ、製図の技能・計画・設計の考え方、建築の実務的技術内容との関わりについて理解させる。	2 前	144			○	

○	環境デザイン演習(建築設計コース)	建物廻りのデザインや、都市につなげるデザイン、自然と人間との関係を取り入れたデザイン、公共空間における美等について、座学・実習及び見学を通して理解させる。	2前	36				○
○	空間デザイン演習(建築設計コース)	人の分析や構築していく空間計画の基本となるプライベート空間のとらえ方、パブリック空間の計画等について習得させ、空間計画の構築手法を理解させる。	2前	36				○
○	デジタルプレゼンテーション演習(建築設計コース)	デジタルツールを利用した話し方やスライドデザイン等の手法を習得させ、プレゼンテーションのスキルアップを図り、自分の考えを他者に伝える能力を養う。	2後	68				○
○	卒業制作(施工管理コース)	施工計画で習得した知識を生かし、施工計画演習と連動させてコンクリート躯体図・平面詳細図・足場計画図等の作成方法を習得させる。	2後	(204)				○
○	施工図演習(施工管理コース)	コンクリート躯体図・割付図等の施工図を描くことにより、意匠図・構造図を総合的に読み取る能力を養う。	2前	(72)				○
○	施工計画演習(施工管理コース)	コンクリート躯体図・割付図等の施工図を描くことにより、意匠図・構造図を総合的に読み取る能力を養う。	2前	(72)				○
○	施工実習Ⅰ(施工管理コース)	実習や見学を通じて施工関連知識の理解を深める。	2前	(72)				○
○	施工実習Ⅱ(施工管理コース)	実習や見学を通じて施工関連知識の理解を深める。	2後	(68)				○
○	卒業制作(建築設備コース)	建築の重要な要素の一つである建築設備の基本である空気調和設備、給排水衛生設備の設計に必要な知識のほか、計算書及び図面の作成方法を習得させる。	2後	(204)				○
○	給排水衛生設備演習(建築設備コース)	給排水衛生設備の設計に必要な技術的内容を理解させ、建物用途・規模・予算に応じた設備計画ができるようにさせる。また、給排水衛生設備の写図を通して、設備図の描き方のほか、小規模な事務所ビルの設備機器の選定及び図面に表現する能力を養う。	2前	(72)				○
○	空気調和設備演習(建築設備コース)	空気調和設備の設計に必要な技術的内容を理解させ、建物用途・規模・予算に応じた設備計画ができるようにさせる。また、空気調和設備の写図を通して、設備図の描き方のほか、小規模な事務所ビルの設備計画をし、機器の選定及び図面に表現する能力を養う。	2前	(72)				○

	○		電気設備演習Ⅰ(建築設備コース)	建築における電気工事全般の知識を習得させ、電気設備設計の基本を修得させるとともに、第2種電気工事士の資格を取得させるようにする。	2 前	(72)			○	
	○		電気設備演習Ⅱ(建築設備コース)	建築における電気工事全般の知識を習得させ、電気設備設計の基本を修得させる。	2 後	(68)			○	
○			アッセンブリーアワー	学校行事やクラス運営に関する事項の伝達ほか、学生が充実した学生生活を送れるように支援する。また、学生の進路の自己実現に向けての自主性を育成するとともに、組織的、継続的な学習や各種小テスト等を通して、学生一人一人の進路の自己実現が図れるように指導する。	1 前後	70			○	
○			アッセンブリーアワー	学校行事やクラス運営に関する事項の伝達ほか、学生が充実した学生生活を送れるように支援する。また、学生の進路の自己実現に向けての自主性を育成するとともに、組織的、継続的な学習や各種小テスト等を通して、学生一人一人の進路の自己実現が図れるように指導する。	2 前後	70			○	
合計				70 科目	2,626 単位時間 (単位)			